

「地域文化が教育に与える力」を目的にしたりした。沖繩県うるま市勝連町に起きた奇跡のような出来事である。種をまいたのは旧勝連町の教育長だった。この町には世界遺産の勝連城跡があるが、城主は首里の逆賊とされている。教育長は、城主の賢君としての側面に光を当て、伝統芸能「組踊り」の舞台を通して地域の子供に伝えようと考えた。その大役を当時31歳の演出家、平田大一人に任せただけである。

稽古の初日、集まったのは7人だけ。そこには大人の壁があった。シャイな田舎の子に舞台など無理、部活動や塾で忙しいと大反対された。送り迎えをしてくれるならという親もいて、彼の仕事は役所のバスで子供を迎えに行くことから始まった。それから3カ月、参加メン

品川女子学院校長 漆紫穂子



バーは150人に膨れあがり、2日間の公演には4200人の観客が来場したのだ。1回限りと思っていた平田

うるし・しほ「東京都内の私立校教諭を経て品川女子学院で学校改革に着手。社会で活躍する女性の育成を目指す。昨年4月から現職。文科省新システム開発プログラム委員。通った。昨年は東儀秀樹氏も出演し、客席には市川団十郎氏の姿もあった。知人から「教育関係者として1度見るべき」と勧められて1度見るべき」と勧められ、沖繩に舞台稽古を見に行かすのか。尋ねてみた。

肝高の子供たち

氏だったが、子供たちが町に嘆願書を提出し、継続した。あれほど反対した親はサポーターとなり、近所に引越してくる家庭まで出た。評判が評判を呼び、初の東京公演は入場券が完売。当時現職大臣だった竹中平蔵氏は、文化を基調とした地域再生のモデルだと沖繩まで4回

「最初はだれも続くとおもうがシャイな姿でやってくれていなかった。でも、自分たちで作る難しさがあって、その分達成感もあつてのめりこんだ。ヒップホップと違う伝統芸能もかっこいいと思うようになった。ここは田舎で馬鹿情が一変した。一人ひとりがにされるから外に出ることは、歴史と地域を誇りに思う」

旧勝連町が「子育て宣言」を考えた際、子供たちから「地域貢献」という言葉が自然と上がったという。舞台の名は「肝高の阿麻和利(誇り高き、天から降りてきた)」。子供が変わり、大人が変わり、地域はまさに「誇り」を取り戻したのだ。平田氏は言う。「自分が特別なのではない。若い自分にチャンスを与えたその恩に報いたいと力が沸いた。どこの地域にも文化という宝、人材という宝は眠っている」

教育

毎週水曜日掲載